

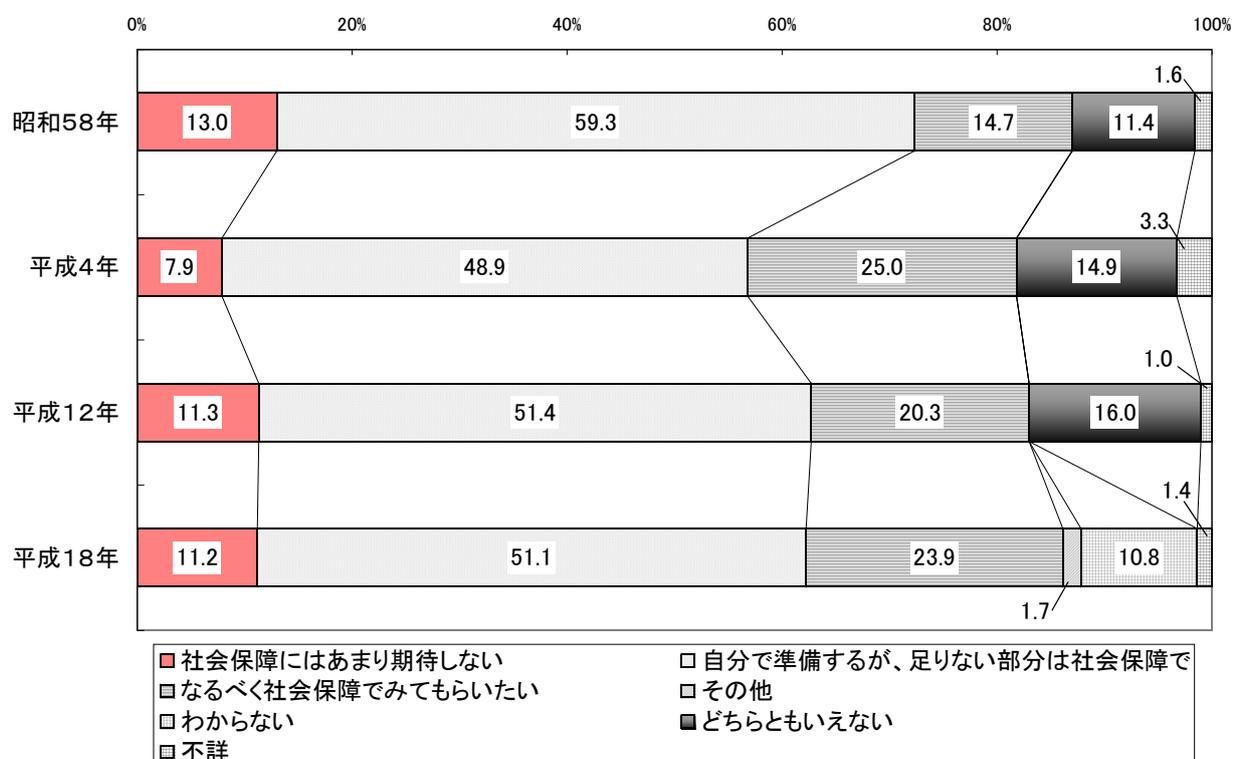
1.1 老後生活と社会保障（年金、医療、福祉など）の関係について

- ・足りない部分は社会保障でみてもらいたいが過半数

老後と社会保障の関係については「老後の生活の準備は、まず自分ですが、全部はできないので、足りない部分は社会保障でみてもらいたい」とする者が51.1%と過半数を占めている。

平成12年の調査と比較すると「老後の生活の準備は、まず自分ですが、全部はできないので、足りない部分は社会保障でみてもらいたい」とする者の割合は51.4%から51.1%とほぼ横ばいであるが、「将来のことは予測できない面があるので、自分で準備するといっても限界がある。社会保障のための負担が重くなってもよいから、老後の生活はなるべく社会保障でみてもらいたい」とする者が20.3%から23.9%と増加している。

図 2.1 老後生活と社会保障の関係について



(注) 平成18年調査において、調査項目を一部変更し、「どちらともいえない」を「その他」及び「わからない」に変更した。

年齢階級別にみると、若い世代においては「老後の生活は自分が考えるべきで、若いときからその準備をする。社会保障にはあまり期待しない」の割合が多くなっているのに対し、高年齢層では「将来のことは予測できない面があるので、自分で準備するといっても限界がある。社会保障のための負担が重くなってもよいから、老後の生活はなるべく社会保障でみてもらいたい」の割合が多くなっている。

図 2 2 年齢階級別にみた老後生活と社会保障の関係について

